

# 「イクケン香川」子育てカレッジ

## プレパパ・プレママ学科 B-2 コース



日時 ● 11月3日(祝) 13:00～14:10

会場 ● 高松テルサ(高松市屋島西町)

対象 ● 結婚・妊娠・出産を控えた夫婦・カップル

参加人数 49名

プログラム

13:00～14:00 講演会

14:00～14:10 松本助産師さんとトークセッション

### 【講演】イクメンで行こう！

『イクメンで行こう！』著者 渥美 <sup>なおき</sup> 由喜さん

#### ■これからのワーク・ライフ・バランスは、ジェンガ式仕事術で！

すそ野が広く時間がかかるピラミッド式ではなく、高さを積み上げる前に効率的な進め方を検討し、抜いて乗せる方式。これからは、多角的な目でプロセスを検討して、周辺業務を減らすことで時間を作りましょう。

#### ■頭文字や・か・ま・し・いの手法

(や)やめる、(か)簡単にする、(ま)真似をする、(し)してもらう、(い)一緒にする→長時間労働から脱却するためには、新たな業務に着手する際に、これまでの業務を2割削減することをルール化する→そのための手法です。

#### ■産後クライシスを回避するのは夫

子どもが生まれてから夫婦関係が悪化する家庭は、妻の愛情曲線が低迷したまま回復しません。出産直後～乳幼児期に夫がどれだけ変化していけるかが重要。

私自身は育児休業を2回取得し、専業主夫を経験しました。育休は休みではなく、就労時よりも過酷でした。社会的に取り残された感覚を持ち、子どもは母乳を

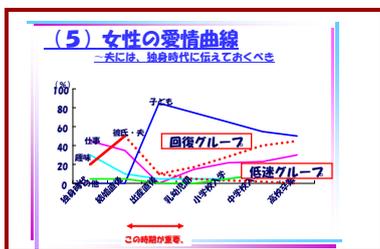


#### 【講師紹介】

内閣府少子化社会対策大綱を踏まえた結婚・子育て支援の推進に関する検討会座長代理 民間シンクタンク勤務

ワーク・ライフ・バランス、ダイバーシティ関連の専門家として、TV あさイチ、クローズアップ現代+などに出演。

また、10年前に誕生した「イクメン」という言葉の名づけ親でもあり、Eテレすくすく子育てにも出演している。



産後クライシスは夫の不作為責任を含む社会の在り方に問題があるとTVで放送すると、世の中の妻たちから大反響！1時間に2500名を超える方から投書がありました。

ほしがって泣き、地域の冷たい視線を浴びて、パタニティブルーに陥った日々。でも、公園でようやく地域の女性たちに受け入れられて、変化したのです。料理もまったくできなかったのですが、今では弁当まで作れます。家事はやってみたら「楽しい」けれど、楽ではありません。だから夫婦で、お互いのできることをやっています。妻に言われなくても、やり残してあることに気づき、たとえば流しに残っている皿を洗ったり、取り込んだままの洗濯物をたたんだりできるようになりました。

#### ■大変だ!合戦を放棄

育児に加えて親の介護もしています。夫婦が自分の方があなたより大変だ！と訴える大変だ！合戦状態になりましたが、それでは何も解決しません。大変だ!というときは、相手を主語にして話をするようにしたら、うまくいくようになりました。



#### ■イクメンからイキメンへ

週末に子ども会ボランティアをして22年。のべ2千人の子どもと交流しています。自分の子どもだけでなく、地域の子どもの育てる「イキメン」が求められています。家庭、社会の歪みの影響を最も顕著に受けるのは弱者である子どもだからです。

#### ■ワークもライフも「良かった」作り

子どもが生まれてきてよかったと思える、妻が産んで良かったと思える、誰もが働いてよかったと思える、親が晩年に生きていて良かったと思える環境作りをしていきましょう。

## ●助産師 松本さんより

産後の夫婦の関係性では、ママは毎日の生活でどんどん育児が上達していくのに、パパは一步後退して、おいてけぼりに感じます。パパは「こんなに一生懸命にやっているのに、妻は分かってくれない」と不満に思っていることもあるでしょう。大事なことは、夫婦でよく話をすることです。

助産師は、産後の妻の悩みの聞き役になって、愚痴を吐き出してもらうようにしています。



助産師  
松本さん

## 質疑応答では

Q 「自分の父親の生き方を尊敬しているのでモデルとしたい。しかし、仕事人間で家事も育児も一切しない世代だったので、今のイクメン社会と大きな違いがある。(35歳 男性)」



## ●渥美さんの回答

自分の父親をモデルとすること自体は良いと思います。ただし、普段は妻に任せていても、ここぞという時を逃さず、子どもを叱れる父親になるためには、普段から子どもをよく見て、家庭に関わっておかないといけないのです。

また、他家のイクメンと比べられ、妻が夫に～してほしい要求レベルは格段に上がっています。そのことは無視できません。たとえば、休日に妻を家事・育児から完全に解放するというサポートをしてみたいかでしょうか。

## 参加者アンケートより

- 今後、自分ができる範囲での協力をしようと思いました。自分のこと、主張だけでなく、相手の気持ちに立つという、客観的にみれるかどうかを実践したいと考えます。ありがとうございました。(30代、男性)
- とても興味深く、楽しかったです。(20代、女性)
- この講演に参加できて、為になった話が聞けたので良かった。(20代、女性)
- 初めて参加しました。“イクメン”な旦那さんと結婚したいと思いました。(20代、女性)
- 「イクケン香川」を初めて知り、子育ては母親だけでなく父親も協力していく時代なんだと改めて感じました。(20代、女性)
- 私も、子どもができた時、育児に対して積極的に参加していきたいと感じました。(20代、男性)
- ありがとうございました。(30代、男性)
- 夫婦で協力することが、大変で大切なことだと実感しました。(30代、男性)
- 子どもは小学生になってしまったので、もっと早く夫婦でお話を聞きたかったです！これからでもまだ遅くないとも思っているの、いいことノートはまねしたいと思います。(40代、女性)
- 男性の育児参加の必要性、重要性が勉強になりました。今後の育児に役立てたいと思います。(40代、男性)
- 渥美さんのお話、初めてお聞きしましたが、おもしろく、時には感動もあり、参加して本当に良かったと思います。ありがとうございました。(20代、女性)
- 渥美さんのお話が、自分の家庭におきかえて考えることができ、涙が出ました。本も読んでみたいと思います。(30代、女性)
- 渥美さんのお話、香川県で生で聞け、それもわははさんとのつながりがあってという事で、香川県 本当に恵まれていると感じました。(40代、女性)